

【Bグループ：今野委員発表】

大規模な工事を伴うようなやり方はしない。  
現在の湿地環境は、最大限残した方がよい。  
小さな流れが欲しい。(旧流路にこだわらず、何か流れがあったほうが良い。)  
水の確保に湧水や雨水の利用が考えられる。(大規模な工事に関連して)

止水環境

- 現実的に湿地を保全整備する。
- 今の湿地を維持する。
- 荒川の水位を上げ、湿地化する。
- 入ってきた水を貯める。
- 短期的には、周辺の水田を湛水に。
- 60歳の私が子供だった頃の旧流路を目指したい。
- 乾燥化防止のため掘削する(50年前の状態に戻すイメージ)。

流水環境

- 荒川(本川)を蛇行する川に。
- 長期的には再蛇行化。
- 本川の河床を徐々に上げていく。
- 洪水時のみ流したい。
- 乾燥化防止のため、多少の水は流したい。
- 旧流路にも小川のような流れを。
- 横提に穴を開ける。
- 止水性の生物が減る。
- やり方によっては水性種(メダカなども)残せる。

■ 実験を行い、長期計画を決める。

【Cグループ：木内委員発表】

乾燥化は防ぎたい。(ただし、本川の水をそのまま入れると環境が激変する。そんな乱暴な話はない。)  
流れは欲しい。(旧流路の一部に)  
長期的な視野で考えて、本川と旧流路のあり方を考えていきたい。  
水の確保に雨水や湧き水の利用が考えられる。

止水環境

- 本川の水を旧川にどの程度もってくるのかのレベルを決める必要がある。
- 川を2本に分けるより、旧川は止水のままに。既に流水河川はある。
- 止水にしても水を入れないと乾燥する。冠水頻度、水を入れる量を考える必要有り。
- 旧川の水の入り口を掘り下げれば、冠水頻度が上がるだろう。
- 中・小洪水でも水が入る構造にする。
- 川の水位まで下がっていなくても、地下水によって水が出るだろう。
- 地下水位面どのくらい？ 現在調査中
- ホンダモトクロスを作るために5~6m掘り、出た水を旧川に入れていた。乾燥化進んだ。
- 上池のカーブ、40~50年前に地下水が湧いていた。
- 止水の場合、乾燥化を防ぐにはどんな方法があるか。
- 補給する水が減少しているのが乾燥原因の一つ。

流水環境

- 川は蛇行しているのが本来の姿なので流水にすべき。
- 土砂管理のあり方 上流のダム、流路の固定による河床低下を戻す対策。
- 段階的に水を流す。流し方を工夫してはどうか。
- 通常でも水が入るように。市野川の水を持ってくる。
- 湿地は掘れば作ることも可能。流水は作りにくいので積極的に作るべき。
- 洪水時だけ流水にして、あとはワンドにできるのでは。
- 30年代の荒川に戻すのは現状の人為的コントロールの河川では困難。
- 本川の水を流すのは物理的に難しい。時々水が流れる程度に。
- 今の湿地に棲んでいる生物にとって、流水下では影響が出るのではないか。
- 今の荒川の1/10 ~ 1/50程度の水を入れるだけでは流水とはならないだろう。
- 蛇行河川は放っておくと、どんどん自由に蛇行し続ける。
- 流水にする時の課題として、河床低下による段差が発生する。
- 本川の堰上げによる水位上昇は、治水上難しいのでは。

- 旧川を再生しても、本川に課題が残る。
- 秋ヶ瀬堰の影響を受けている。
- 本川は放水路のままでよいのか。魚が非常に少ない。